

飯豊・内の倉川支流七滝沢

小沼 充範

■山行年月日:平成 30 年 7 月 15 日～
16 日

■メンバー:小沼充範、林 正規

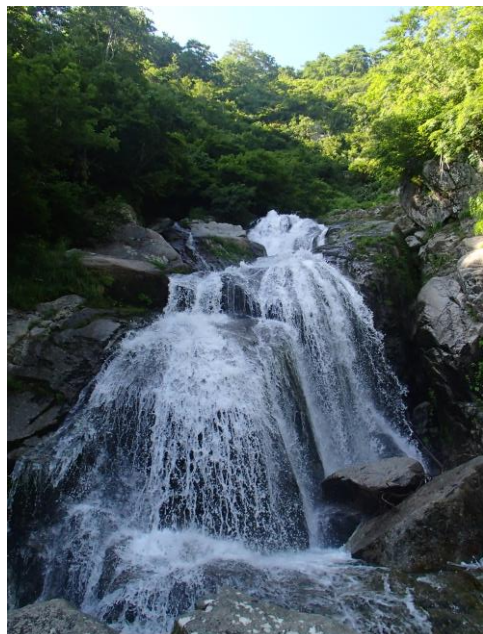
7 月 15 日 前日、西会津にある道の駅に泊まる。車の騒音で眠れず、寝不足の状態となった。小沼の車を二王子岳登山口に置き、内の倉ダムへむかう。8 時 30 分出発。内の倉川左岸の道を歩いて行く。かつて内の倉川遡行のとき雨具を着込みメジロの大群にたかられたのを思い出す。9 時 25 分、対岸に七滝沢出合いを見つけ内の倉川を渡る。梅雨明けしたもののメジロはまだ発生していないようだ。陽射しが強く、蝉の鳴き声が暑さをかきたてる。水の中はとても気持ちが良い。

ゴーロの中のワイヤーを過ぎ、釜を持つ小滝を左岸から巻いて行く。釜のある小滝を左岸から巻くと長いゴーロが続く。4m滝を越えると釜を持つ 8m滝が現れ右側を登る。12m滝を左岸から巻いて上部に出ると 15m、30m、30mと滝の連瀑帯となり、地形図で七滝と記されている場所である。登れそうになく右岸を大高巻きする。道があると聞いていたが見つげ出すことができず、登りやすい所を狙って行く。巻き道はどうやら左岸に付いているようだ。気温は 30 度あるのだろう。高巻きはサウナの中にいるようで汗が流れ出る。滝の落口に延びる支尾根に上がると七滝沢の流れが見える。ブッシュに沿って下り懸垂下降で沢に降りる、13 時。水浴びをして大休

七滝沢最初の連瀑



二番目の連瀑上部



止とする。

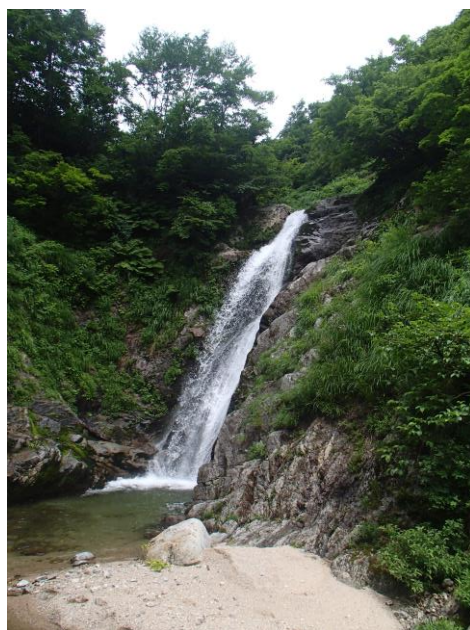
ヒグラシが鳴きはじめ冷涼を感じさせる。5m滝を越えるとゴーロの滝となる。右岸から枝沢が入り 10m滝を越えると 20m前後の滝がいくつも連なる第二の連暴帯となる。先ほどのような大高巻きはなく、小さな巻きを交え右岸にルートをとる。15m滝、20m滝はまとめて高巻き、ショルダーで滝の落ち口へ登ったりする。20m滝を右岸から高巻いて行くと連暴帯最後の 15m滝が現れ快適なスラブの登りとなる。滝の上から約 150mにおよぶ連暴帯を見下ろすことができ、焼峰の稜線が目前に見える。時計を見ると 16 時であり、連暴帯も終わり優しい流れとなって泊まり場になるかと思っただけそうはいかなかった。

5m滝を右岸から倒木を利用して巻いて行き、砂質の流れをたどると深い釜を持つ 25m滝が現れる、16 時 30 分。登れない滝であり、高巻きのルートを見つけるため周囲を見渡す。巻くとすれば右岸しかなく、山感で右岸のブッシュ帯を登る。脆い岩場の斜面となり、頼りないブッシュを手がかりにブナのテラスまで何とか這い登る。不安定で足場の悪い箇所であり、ロープを出す。ここは七滝沢の核心部となる所であろう。

沢は小滝と釜の連続となる。18 時、右岸より 957m南側を流れる枝沢が入り、左岸より 1,112mから流れる枝沢が入る十字峡となる。右岸に快適な設営地があり行動終了とする。下界と違いとても涼しく天然クーラーである。蚊取り線香を持ってきたものの蚊に悩まされることはなかった。焚火の傍で酒宴とす

る。寝不足もあって夜は十分な睡眠をとることができた。

7月16日 8時30分出発。平凡な川原歩きが続くものの川床がぬめっておりラバーソールでは滑りやすく気を使う。8m滝を右岸から巻いた後も平凡な流れが続く。右岸には 1,142mから流れるスラブ 100m滝を見ることが出来る。釜をもつ 3m滝は左岸の草付きから巻いて行く。ゴーロを過ぎ左岸から枝沢が入ると 3m滝となる、10 時。現在地は 973mの東側のようなのである。ゴルジュとなり 2m滝は左側を登り、3m滝は左岸を小さく巻く。つづく 3m滝は右手を登る。右岸から枝沢が入ると釜を持つ 8m滝が現れ左側から登る。立派な 20m滝はホルドの豊富な右手から越える。



中流部 20m滝

上流から霧が流れ雪渓が現れる。雪溪上に登ることも下を潜ることもできず左岸を巻いて支尾根に上がる。1,320mからの枝沢を利用して沢に戻る、11 時。



中流部 3段 10m滝

3段になって美しく流れ落ちる 20m滝は快適に登ることができる。右岸から枝沢が入り、その先は深い釜を持つ小滝に阻まれ右岸を大きく高巻く。後日ネットで調べると、ここは左岸にある残置ハーケンを利用して越えるようだ。高巻きの途中から左側に先ほどの枝沢が見え、猛暑とはいえまだ雪渓で埋めつくされている。二王子岳の山頂も手に取るように近くに見える。支尾根上を下り懸垂することなく沢へ戻る、12時。

スダレ 5m滝を左から巻くと 2m前後の小滝が続く。3m滝を左側から越えると二俣となり水量の多い右俣に入る。3m、4mと滝が現れ、釜のある 5m滝は左岸のフェースを微妙なトラバースで越えて行く。5m、8m、樋状 6mと滝を

越えて行くと二俣となる、13時30分。右俣が二本木山へつきあげる沢であることを確認し左俣に入る。スダレ 8m滝は左岸にあるトラロープを利用して巻いて行く。2段 8m滝を登ると取水口を確認する。10m、8m滝を越えると水量が少なくなり源頭部が近いようだ。

草地に残る雪田の登りとなり、背後に大日岳が見えるようになる。藪を少しこいで行くと登山道に飛び出す。二王子岳山頂 15時30分着。山頂から頼母木、門内岳、大日岳、烏帽子山、蒜場山、阿賀野川、日本海、佐渡島を見渡すことができ、山頂の展望を十分に楽しみ 16時下山開始。夕陽に染まる日本海の水平線を眺めながら登山道を下りて行く。二王子岳登山口 18時30分着。登山口では4~5匹のしつこいメジロの歓迎を受けた。林さんの車を回収するため内の倉ダムへむかう。

七滝沢は、二つの連暴帯を過ぎたあとも手頃な滝が延々と続き飽きることがない。手強い高巻きが連続する、厳しい内の倉川本流に比べると手軽に楽しめる沢でした。

七滝沢源頭部

